

2020 年度グローバル・コミュニケーション学部
教育、研究、社会貢献活動に関する自己点検・評価結果について

1. 教育活動

本学部では開設以来、各教員がシラバスに記載した授業内容や到達目標を踏まえ、様々なツールやシステムを活用しながら、教育効果を最大限に上げるべく、鋭意努力してきた。演習系、講義系、いずれの授業においても、頻繁な課題提出、クラス・ディスカッション、ペアワークやグループワークなどのアクティビティを設け、学生の積極的な授業参加を促すと同時に、きめ細かなフィードバックを与えて、学生の主体的な学びを促す工夫を行ってきた。2016 年度に全コースで導入された新カリキュラムは 5 年目を迎え、大きな教育効果が得られている。

最終学年の 4 年次生の授業においては、学びの総括として、演習科目における論文指導や、「Seminar Project」におけるプロジェクトの企画・運営の指導を行い、本学部が目指す実践と教養のバランスのとれたカリキュラムの理念を実現している。また、初年次教育が特に重要という考えから、1 年次生の授業出欠状況に関する情報共有を組織的に行い、必要な学生には個別指導を行なっている。加えて、2017 年度に策定した「成績不振及び長期欠席学生に対する個別指導の指針」に基づき、全コースで一貫した形で学生指導にあたっている。このように、学生との対話を通じたきめ細かい教学指導を徹底することで、2020 年度においても、一人ひとりの学生が充実した学生生活を送ることができるように努めた。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、春学期の授業はオンラインでの実施、秋学期は対面とオンラインを併用する形での実施となった。これは本学部の教育活動にとって新たな挑戦であったが、個々の教員の創意工夫と活発な情報交換により、対面・オンライン両方の利点を活かした教育活動を行うことができた。春学期には本学共通のオンライン教育システムである e-class の操作に関する講習会を FD 活動の一環として実施し、授業の効果的なオンライン化を目指した。秋学期には、より質の高いオンライン教育活動のため、講義動画収録や双方向型授業に使用できるスタジオ設備を学部施設内に設置した。

正課授業以外の主な教育活動としては、本学部学会の小冊子『Cosmos』発行に加え、「Welcome to GC」と題する受験生・高校生向けの学部紹介イベントや、日本語コースの留学生と英語・中国語コースとの交流を促進する「タンデム・パートナー」制度を通じた活動を行なった。コロナ禍で様々な制約はあったが、学生と教職員の協力と創意工夫により、例年に劣らぬ充実した課外教育活動が行われた。2020 年度に新たに行われた正課外活動としては「GC 学部 Zoom ひろば！」がある。異なる学年やコースの学生が集い、ときには卒業生を交えての意見交換やディスカッションを行うオンライン上でのイベントが 6 回にわたって開催された。

こうした取り組みの結果として、2020 年度も「高度な外国語運用能力を駆使して

facilitator、negotiator、administrator として活躍できる国際人を養成する」という本学部のディプロマ・ポリシーを達成できたと自負している。本学部ではディプロマ・ポリシーの達成度を検証するためのアセスメント・ポリシーを定め、卒業前に提出するゼミ論文をもとにした、4年間の学びの検証を行っている。2021年3月には第7期生（2017年度生）が卒業したが、高度な外国語コミュニケーション能力、異文化理解力、問題発見・解決能力を身につけた本学部の卒業生は、社会でも高く評価されており、2020年度も好調な就職状況となった。また、英語コースでは2017年度4月より教職課程が開設され、次世代の英語教育を牽引する中学校、高等学校英語科教員の育成を行なっている。その成果として、教職課程の第一期生の中から、実際に中学・高等学校で英語教員・教諭の職につく学生を送り出すことができた。

2. 研究活動

教員は言語学、社会科学、教育学、文化研究、文学、ビジネスコミュニケーションなどの諸分野で、著書、論文執筆に加え、翻訳、学会発表、ウェブページやシステムの開発といった活動を通して、活発に研究活動を行った。また、本学部の教員と学生によって構成されるグローバル・コミュニケーション学会の学会誌『コミュニカーレ』第9号が発行された。

3. 社会貢献活動

多くの教員がそれぞれの専門分野の学会などで委員の職につき、学外の社会貢献活動に積極的に関わった。また、市民講座での講演、メディアからの取材への協力、中学校・高等学校の生徒を対象としたコンテストでの審査員用務などを通じて、研究成果を社会に還元する活動を行った。また、数名の教員は地域の国際交流事業、有識者会議、専門的知識を必要とする類のボランティア活動などでも社会貢献に取り組んだ。